

第9回伊丹十三賞受賞者 星野源さんご来館レポート

梅雨入り後にもかかわらず、爽やかに晴れた6月某日の昼下がり、第9回伊丹十三賞受賞者の星野源さんがご来館くださいました。



「今度、記念館にいらしてね、デートしましょうね!」

このときの約束を、お忙しいスケジュールを縫って、果たしてくださったのでした。少しですがレポートさせていただきます。星野さん、いらっしやいませ!



宮本館長がお迎えして「展示を御覧になるの、どういうふうになさりたい? お一人でゆっくり? ご案内したほうがいい?」と尋ねますと「じゃあ、信子さんと一緒にいいです!」と星野さん。



伊丹さんもニコニコでお迎えです

「信子さんが一緒に楽しかったんですよ」と頻りにフオロしてくださっていました。

H 楽しそうですね、料理の写真。M 息子が撮った写真なんです、顔が違いますよ?



「料理通」のコーナー

これは玉村豊男さんからたくさんトマトをいただいたとき、「トオチャン料理する!」って。ほんとうに上手でしたよ。パッパッパッ作っちゃう。(大きな鉢を指しながら) これでカニ玉をずいぶんいただきます。時々作ってくれるのがうれしいの。

H こういときは伊丹さんが作る、信子さんが作る、と決まっていた?

M いいえ。「今日のおかず何がいい?」なんて聞いちゃいけないって言われて、「この通りにやれば作れるからね」って辻留さん(辻嘉一さん)の料理の本を渡されました。でも、おいしいものをいっぱい食べに連れて行ってくれましたし、本の通りにやれば本当にできるの。きちっと軽節をこうやってかいて、出し汁を取ると、ネ!



【音楽のこと、お仕事のこと】
俳優であり音楽家でもある星野さん。音楽の展示、ご自身の音楽

【家族の暮らしのこと】
館長が一緒だと、自然と家での伊丹さんの様子や家族のことが話題に。映像や展示品に見入ったり笑ったりする合間に、館長にいろいろとご質問くださっていました。



少年時代の日記や観察ノート

星野さん(以下H) 全部残ってるの、すごいですね。
宮本館長(以下M) 本人は見えていなかったけれどね、家の中の衣装ケースにまとめてあった。ずっとそのままになってました。



「商業デザイナー」のコーナー

H デザイナーが最初の職業だったんですね。(漫画読本ポスターを見て)すごいですよ、これの思いつきの。絵も描いたんですか?
M 頃頃から手を休めることがなくて、いつも何か描いてました。

H 何描いてるの? 「みたいな会話はあったんですか? あまりにも日常的で何も聞かないものですか?」
M 特に何も。お酒を飲めば、酔うものことでしたから……酔う

楽のお仕事についてもふれてくださいました。



「音楽愛好家」のコーナー

H (レコードを覗いて) おお! ジャズも聴かれましたね。僕の実家にもある。あ、ポツプスも——ビートルズ……エルトンプジョン……ザ・バンド! いいですねえ。音楽は仕事にしようという感じはなかったんですか? 趣味と決めて分けてたんですか?
M 趣味ですね、考えてなかったと思います。自分で好きで。玉置館長代行(以下T) 『ミンボーの女』の公開後に伊丹さんが襲われる事件があって、その時に顔と手を切られて、手の怪我のせいでギターが弾けなくなりました。一度も悪癖を聞いたことはいんですけど、ギターを弾けなくなっただけを悔しがっていましたね。

T 星野さんは映像のお仕事ではご自分でアイデアを出しますか?
H CMでアイデアを出すことはないんですが、ミュージックビデオはかなりアイデアを出しますし、編集もします。撮った素材を編集するのは、楽しいです。



一六タルト CMのアイデアメモ

と机をふきんでしょつちゅう拭いていました。そういうところは見事に子どもに遺伝するわね。H お子さんに面影をみることはありますか?
M ありますよ。襟足がそっくり。それと、考え方が似ますね。言う時は強く厳しいとかね。的確に言うところがそっくり。的確に射っているって、ああこういうことかしらって。



「俳優」のコーナー

H 俳優になったのは二十六歳の時だったんですね。
M 何していいか分からなかったんだと思います。

H 伊丹さんが監督になってから、撮影中は一緒に帰ったりご飯食べたりしました?
M あちかんとクノの「君ご飯食べた?」ってお弁当持ってくるの、女優の控室に「まだですけど」って言う、そこでお弁当広げるから、「スタッフルームにいらしたらどうですか?」って。そしたら「いいんだよ」って。どういうわけか来るの。私は一人になりたいのに(笑)

M 監督は孤独でしょうか。
M ああ、そうかもいれませんが。スタッフや共演者の目もあるから、私としては絶対線引きしたいのに、グチャグチャ(笑)

H 一般的には、伊丹さんはそういうところは割と厳しそうというイメージがありますけど……
M 真逆!

H (笑) でも素敵な気持ちになります。
M 帰りは私が先に終わると「もうすぐ僕終わるから」って。帰ったらすぐに料理しないとイケない

M 伊丹さんも! 「あととはよくない一方。誰もNG出さないし」って。

H 天気も関係ないですもんね。ヘリで待つこともない(笑)。監督さんはいらっしやるんですけど、ダンスシーンとか音と動きが関わるところは自分で編集したいので、素材をいただいています。

「アイデアを出しながらお仕事するのが楽しいです」「編集大好き!」と笑顔で話してくださった星野さん、「映画監督はいかがですか?」「伊丹さんの監督デビューも五十一歳の時でしたから」と水を向けられて「いや、今は時間が」と。そして、そういうわけで映画監督のコーナーにまじります——



【自作の宣伝のこと】



「映画監督」のコーナー

H (インタビュー風の映画撮影日記の直筆原稿を見て) 聞き手の方のお名前が「文春の人」というのがいいですね。

T これは架空の、理想の聞き手ですね。「自分が聞いてほしい質問を一番分かっている人」は伊丹さん自身なので。

H ハハ、それはスゴイ!(笑) M いい質問がこないという答えが出ない、引き出す方の力量いい質問が大事だって言ってます。H 監督作品のチラシの文章も書かれていたんですね。

展示品あれこれ集

「スゴイ!」をいただいた展示品をご紹介します



昆虫観察ノート

「スゴイですね、いくつかの時のものですか?」(12歳です)「エッ! スッゲェ!!」(と二度見)——星野さんのバリエーション豊富な「スゴイ」の中でも、最大級をいただきました。



高校時代の写真

「すでにして『伊丹さん』になってますね、カッコいいなあ」——はい、「眉と眉の間に縦皺を寄せている俳優のリスト」『再び女たちよ!』を作るよりずっと前から、眉間に皺があったのですね(笑)



イラスト原画

「緻密ですねえ……あ、原稿用紙の裏側なんですかね!」——食い入るようにエッセイの挿絵の原画を見つめて発見。細かいところもよく見てくださっていました。



伊丹万作全集レタリング

「これ、ステキですね…」(しみじみと、ポツリ)——父の全集に息子が寄せた題字レタリングは伊丹十三のデザインワークの代表作です。「伊丹十三記念館」のロゴマークは、この「伊丹明朝」を元にして作られているんですよ。



伊丹万作の手作りカルタ

「裏側、というのがいいですね」——軍国主義を子供たちに刷り込む玩具「子供ナリグミカルタ」に憤った万作が、すべての札の裏面に芭蕉の俳句と絵を描き、我が子に贈った品です。諧謔や洒脱を忘れない万作の人柄を一言でビタリ。



『マルサの女』ファミコンソフト

収蔵庫にて。真っ先に見付けて「あ! これはヤバいです! 当時欲しかったヤツ!!!」——満面の、弾ける笑みを頂戴しました。脱税摘発RPGのファミコンソフトです。こういう時、人は時空を軽々と超えますね。

編集後記

☆常設展示室に入るときに伊丹さんの写真に「よろしくお願ひいたします」とお辞儀をなさって、それを見た館長が微笑んでいて、「楽しい時間になりました」とワクワクしました。展示品やご案内に特に感心したときに、パシッと太腿を叩きながら「スゴイ! これはイイ!」と、ほんとうに「膝を打って」いらしたので、こちらにも楽しさがうつって、つい笑ってしまふこともありました。自然な表現で周りを楽しい気持ちに巻き込んでしまふ方なんです。

☆宮本館長のことを「信子さん」と呼んでいらっしやったことに、そこはかたくなに親しみが込められていてるのを感じて、とても印象的でした。ご来館の機会を満喫してください。ご様子に接しながら、「もし星野さんの記念館があったならば、きつとポップでカラフルで、やさしくて愉快な空間に違いないな……うわあ、行ってみたい!」と想像しておりました。ひそかに楽しみにしております。

☆星野さんは、テレビなどで拝見するのと変わらず、物腰柔らかく、ゆつたりとした空気をまとっていらっしやいました。星野さんと館長の笑顔と笑い声が館内に広がって、ほんとうに仲良しカプルのデートのようでした。星野さん、コーヒーはブラック派なんですね。

☆休憩を取らなくて大丈夫でしょうかと心配になるほど、長い時間をかけて、館長の案内に熱心に耳を傾けながら、展示室をご覧くださいました。全員でお見送りさせていたいたときは、車の窓から身を乗り出して見えなくなるまで手を振ってください。全開の笑顔とお持ち心に心が温まりました。